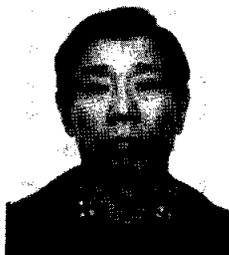


古川 昭

(ふるかわ あきら)

1945年北海道上砂川町に

生る。
札幌市立山の手南小学校教諭。北海道自然観察指導員連絡協議会理事。自然観察全般、小動物、園芸類の栽培飼育に興味を持っている。



古川 昭

豊羽の自然に親しむ集いの記録

「豊羽の集い」というのは正式には「豊羽の自然に親しむ札幌市民の集い」といい、夏休みに親子ファミリーを対象にした自然観察会である。場所は、札幌市南区定山溪から一四キロ入った無意根山麓の豊羽自然学園で、毎年一回実施されている。

参加者は、年々増えて昨年四回目の集いでは、百二十名規模になっている。一般観察会に比べ参加者が多いのは、行事の案内を北海道新聞や札幌市広報掲載などで一般に広くPRされているからと思われる。また、宿泊付きの行事である割に費用が安い（昨年は一人一、六〇〇円）ことも参加しやすい条件と思われる。

この会を進めているのが、北海道自然観察指導員連絡協議会である。自然観察指導員というのは当協会と日本自然保護協会とが主催する自然観察指導員資格講習を終え、指導員の資格を得たものたちで、自然観察会を行うために組織した会である。この会の目的として「自然を尊び、自然を学び自然観察会活動を通して多くの人々と自然について語り、自然に親しみながら自然と調和する方法を探索し、このかけがいのない自然をより良い姿で子孫に残そうとするものである」という趣旨のもとに毎年事業を組み、各種の自然観察会を実施してきている。この会は発足五年を迎えているが、会員は全道に約一六〇名いる。昨年、三年ぶりに行なわれた指導員講習会では四十数名の会員が新たに入会した。

この会は年間十二回程度の観察会と会員対象の宿泊研修会を行なっているが、他に自然保護思想の普及として、宿泊付きの観察会を実施しているが、これが豊羽の集いという観察会である。

この行事のねらいとして、自然観察を通して、自然の美しさ、自然のしくみについて知識を深めると

いうねらいのもとに行なっている。宿泊については、設備のある札幌市豊羽自然学園を利用してきている。この学園のある豊羽は豊羽鉱山（鉛・亜鉛・銀鉱物などを産する優良鉱山）の事業所と従業員住宅地からなる地域である。またこの学園は無意根山登山活動を主とした野外教育施設であり、年間多数の宿泊者を受け入れてきている。

観察会の主な内容としては、クイズ形式による無意根山登山路の樹木観察（エゾマツ、トドマツ、ダケカンバ、ミズナラ、ハリギリなどの樹木を観察し、図鑑などで検索し参加者が名前を同定するグリーンアドベンチャー）朝早く住宅地のまわりを散策する早朝探鳥会。川の観察（流れ、昆虫、水質）をするせせらぎウォッチング。そのほか野草観察や夜の自然観察、標本づくりなど盛りだくさんである。

当日の観察会には、十名にほぼ一名の割で指導員がつくが、この指導員は樹木や野草、昆虫、野鳥などについて事前に十分学習し、直前には事前調査をおこなってきている。また、単に植物の名前を教えるということにはならないように、自然のしくみを

一日目		二日目	
12:00	開園式・開会式	6:00	起床
1:00	せせらぎの観察	7:00	探鳥会
4:00	野草観察	7:30	朝食準備
5:00	整理・休憩	8:00	朝食
6:00	夕食準備	9:00	掃除・整理
6:30	夕食	12:00	グリーンアドベンチャー
9:30	就寝	12:30	昼食
			退園式・閉会式
			解放
			バス待ち



グリーンアドベンチャーへの出発を待ちつつ

がら、樹木や野鳥の観察などに目を輝やかせ指導員に何度も質問しながら、自然をじっくり体験している光景が毎年見られる。

また、一昼夜のぎつしりのスケジュールではあるが、疲れもみせず、会の方で準備した内容に、積極的に参加している姿も印象的であった。さらに、夜の集いを含め、集団生活の体験（食事の準備やそうじなどをみんなでする。も意義あることと話していたファミリーもずいぶんあった。

過去四回実施してきたが、成果としては、中味の濃い観察会がおこなわれ、参加者も満足していることがアンケートなどからうかがわれる。そのことが自然を大切に、自然を守っていく保護の思想につながっていくものと信じている。また、過去四回の実施で、会の活動として定着してきていることにより、札幌市の自然のふれあいの事業としても存在を主張できることである。さらにまた、指導員にとっても、長い期間準備のためにボランティア活動をするのが、指導員としての自覚を盛り上げるのに役立つ。この行事の推進のため、会では専門委員会をもうけて準備にあたってると同時に、会報などで会員全員に行事を周知し、当日の指導員参加を呼びかけている。

よりくわしく学び、自然に深くふれあうことを指導の際の意識統一としている。

また、この観察会活動以外に、参加者の募集・連絡・集金業務・部屋わりなど事前の業務はたくさんあり、そのため、四ヵ月位前から何回も会合をして準備してきている。さらに、会の単独実施だけでなく、市役所などの行事協力依頼、マスコミなどのバックアップなどがあつてはじめて成立している。札幌市には趣旨に賛同していただき交通、不便地の足の確保ということで、バス配車をしていただいている。また北海道新聞にもかなりのスペースをさいてこの行事をくわしく紹介するようお願いし、参加者募集にお力添えをいただいている。

参加者は、夏休みでの親子のふれあいを楽しみな

問題点として、無料バスの定員などから、全員の参加希望をかなえることができず、抽選などで参加者を制限していることが、残念である。また、期日が夏休みということで、観察しやすい開花時期のものも案外少なかったり、野鳥観察も種類などの少なさなどから、やりにくい点のあることも指摘できる。また、登山道以外是一般道路の通行が主で、交通安全などについても不安がある。参加者全員が保険加入になっているが、フィールドのとり方など今後考



植物の観察風景

えなければならぬ。さらに、宿泊、バス送迎、参加者の連絡など一泊の観察会特有の準備作業が多く、会のほかの活動や本来の観察会活動に手がまわらなくなるのも過去四回の担当者の実感である。さらに、バスの都合によって行事全体が左右されるのも行事を不安定にしている。

おわりに、自然の尊さを数多くの人たちに理解してもらい、自然を大切に育むことを、北海道の自然を守ろうとするこのような行事を今後とも継続していきたいと願っている。今年度の豊羽の集いは七月二十九日、三十日に行なわれる予定であるので、道協会の会員の皆さんにも参加を呼びかけるものです。